

五月十三日と十四日、田植えをしました。今年も小牛田農林高校のみなさん、東北大学農学部OBのみなさん、沿岸部への支援活動を続けるなかで出会った高橋原先生(東北大学大学院文学研究科准教授)ご一家が手伝ってくれました。

両日とも、塔婆供養やら法事やらがあつたのですが、弟子の正和が勤めてくれたので私は農作業の方に専念することができました。

田植えの段取りは高城の荒川清さん。賄いは白石のカフェ・ミルトンさんと上戸の佐藤早苗さん。若い連

田植え



〒987-0024 宮城県遠田郡美里町中峠字十二神117 三浦 正恵
fishmanmiura@msi.biglobe.ne.jp

▼改築中の本堂を背に田植えをするの図。水面に映る本堂が逆さ富士のようです。本堂は7月末に完成します。



▲撮影/高橋 原

中が入ると大人たちも楽しそうです。寺の田んぼを学生さんに手伝ってもらおうようになって十年以上経ちます。何故手伝ってもらおうのか？米づくりは「人づくり」と言います。農耕に文化がつくことからも分かるように、米づくりをするなかで人を

豊かにさせてきたものが沢山あるのではないのでしょうか。それを若者たちに体験させたいからです。あるとき、お釈迦さまがバーラドヴァー ज्याというちよつとひにくれた働き者に質問されます。「お釈迦さまはなぜ自分で耕して食べないの

ですか？」お釈迦さまは「私も種を蒔き、田を耕しています。そして食べ物をお願いしています」と語り、彼に以下のような詩を詠みます。〈信心はわが蒔く種である/智慧はわが耕す鋤である/精進はわがひく牛にして/行いて帰ることなく/おこない悲しむことなく/われを安らげ福田に運ぶ/このように私は耕し/そうして甘露の果を得る〉これは、雑阿含経の「耕田経」のなかに出てくるお話です。

こういうお説教を休憩時間にするわけではありませんよ。休憩時間には、音楽の話をしたりしてくつろぎます。そして仕事が終わったらみんなでご飯をいただく。そのご飯の美味いこと！老いた母も一緒です。そんな場と時を共有することから、彼等に心の田を耕して欲しいと思うのです。

正恵

本山参り

昭和36年6月7日~18日



金沢兼六園にて

7日/玄松院出発→8日/長野善光寺→9日/福井永平寺→11日/京都平安神宮→12日/大阪城→13日/四国金比羅→14日/高野山金剛峰寺→15日/奈良→17日/鶴見総持寺→18日/帰着 西日本のほとんどを回ってきたのですね。懐かしの顔、顔。下の写真の後ろの列左側に当時30歳の正明住職の顔が見えます。



墓石・外柵の設計・自社施工
墓石修理/建築石材全般

迅速・丁寧・責任施工・ご奉仕価格

墓石ショップ
新生石材古川店
大崎市古川荒谷新芋川94-1
Tel 0229-27-1483

☆新建墓・戒名彫刻・墓所修理などのご相談は
玄松院様または当店窓口迄お申付け下さい

ふり返れば、アツ という間の90年

美里町平針字与惣屋敷
後藤フミ子さん(91歳)

●大正十五年は、昭和元年です。ですからフミ子さんの場合、「ご自身の年齢で、今が昭和何年か分かります。滋味あふれる昭和の言葉に耳をかたむけてみましょう。」



▶「榮一の妹のお見合いがあつて、お茶菓子にピワを買ってきた。種を露地さ植えだつて芽が出た。それが大木になつてね」

だつたかなあ。

御祝儀は高泉と後藤両方でした。婿添えは佐藤正男さんしや。(その後中坪組合長になる)。座敷に座つて盃のやりとりをした。萩坪の方でも親戚が多いからお客さんだちいっぱい来てね。

そうそう、嫁入りするのにハイヤーが一台しかない。んだがハイヤーには私とお客さんが乗って、一郎さん(新郎)は荷物運ぶトラックの荷台に乗って来たんです。

正恵 終戦直後だつたから、物がなくなつたんでしょ？
フミ子 都会の方ではね。おらいでは、米は作つてんべす、味噌は作つてんべす、畑に行けば野菜がある、そんなにひもじい思いをした記憶はないね。

正恵 土地があるということはずいことなんだなあ。
フミ子 んでも気ままに暮らした覚えはないよ。嫁ながら農作業はしたし。美女川の方にも田んぼがあったがら朝飯前に肥料を自転車さ積んで持って行つたりね。

嫁に来た年「玉葱の苗けつから取りさ来い」って実家の親に言われて、喜んで行つた、自転車で。貰つて夕方帰ってきたら、玄関のあたり口に下駄いっばいあつたの。(なんだべ、なにしゃや)って思つたつて、後藤

三郎おんちゃんの家が引き揚げて来たんだね、朝鮮から。誰に世話になつて、なじよして帰つて来たんだがねえ。それがらしばらく一緒に暮らした。御飯釜二回炊いでね。

百歳さんがいた

おらいは元は土手の方にあつた。いづんつあい(後藤悦治さん宅)が佐藤正男さんの所にあつて、おらいはいづんつあいの東前、川名洋一さんの前あたりにあつた。堤防改修でここ(平針字与惣屋敷)に移つてきたの。こつちや来るために櫓を切つたんだね。それをお寺を建てるどきに寄付した。昔はお明神さまの根っこ木を植えたもんだおね。

水害は嫁さ来た年にあつた。私も土手前でさういふのを見るのは初めてだつた。土手まで上つたつて、水面がすぐそこ見えんだおわ。来たばりの嫁ごの筆筒汚してらいいねどつて二階つこあつたんだおねーそこさあげで、そのどきは水かぶんねでしまつたつて、畑はかぶつた。

そんで、萩坪の実家から大勢で水増しの見舞いに来た。そのどぎ、こいら砂地だがら、トミギがなるのが早い、そいず、おらいのお舅お母つあん、ご馳走した。「あらら、見舞いさ来て、トミギご馳走になつ

正恵 何年生まれですか？
フミ子 大正十五年八月四日生まれです。高泉好男、きくよの長女として、萩坪に生を受けましたあ。

おらいのおつびさん(善四郎)は、三本木の太場という豪農の家から嫁入りしたんだね、高泉の本家に。高泉の本家は、萩坪の神社の前、今公会堂になつてゐるね、あそこにあつた。そして本家の息子、舎弟だね、舎弟が大きくなつたつて、善四郎さんは分家に出さなんだ。分家に出さなくても、実家(三本木)の山が売れて裕福だつた。んだがら、私は裕福な家に生まれだんだね。座敷が二十四畳あつた。手間取りがいで、私を「フミちゃん、フミちゃん」と言つて可愛がつてくれた。

正恵 中坪尋常小学校ですか？
フミ子 そうですが。一年生のどぎの担任は鈴木たみの先生だつた。小野寺富士子先生にも教えられたし、三年生のどぎの受け持ちは石崎操先生だつた。

そういえば、ずーつと時が経つて敬老会のどぎ、私、年老いた石崎先生に「先生が、浦谷から中坪小学校に来たどぎ、最初に教つた児童の一人なんですよ」つてお礼の気持ちで語つたどぎがあつた。そしたらその晩おらいさ寿司が届いた「私からの気持ちです」つて。律儀な先生

ですかや」と萩坪の人だちに言われたつたつた(笑)。

お寺の旅行さも連れて行かれたね。日光とか本山とか。それこそあなたのお母さんにお世話になつてね。さわちゃん、面倒みがいいがら。

あんだいのお母さんには「ピワ酒」の作り方を教つて、今の今まで薬知らずですが。あどホレ東城百百子さんの『自然療法』の本ね。私、以前大腸癌になつて入院したつたの。そんで、ちよこちよこ古川の市立病院さ通つてだんだんだけ、最後に、「もう病院に来るごときないですから」と先生に言われた。いずのこまに治つたんだね。

平針に来て、みんなお友達になつたし、ここがお茶つこ飲み場だつた。おらいにホラ百歳さんがいながら、おらいではいづのころからかむめよおつびさんのごとを「百歳さん」と呼ぶようになった。

いづんつあん(後藤幸太郎さんの祖父)はお寺の総代つしや。大般若とか、お寺の回りがだがあるどきはおつさんの案内役をした。庄太郎さん(後藤庄悦さんの祖父)もしよつちゅうおらいさ来てだ。徳三郎さんどおしやべりしたいのがな、と思つてつと私どしやべりだんだおん。きさよさんも立派な、よく出来た人だつた。

だつたねえ。おらいの榮一は石崎允先生(社会保険病院の元医師)にお世話になつたし、後藤の親子二代が石崎の親子二代にお世話になつた。

正恵 高校は？

フミ子 鹿又の女学校に行きました。萩坪がら北浦の駅まで歩いてたおん。中北橋なんか勿論なくて、仮橋。大雨降つと橋が外さいでねえ、難儀して通つたんでがすとお。七時〇九分発の汽車さ乗つて、小牛田駅で乗り換えて石巻線さ乗つてね。石巻から来てだ先生に華道の作法を教つた。

正恵 花も恥じらう女学生だつたんですね。

フミ子 ハハハハ。んだね。

習字の時間に「昭和日本女性」と書いたの。そいづ私の代表に選ばれて、私のだけ貼られた。副級長も二回しましたあ。蔵王山に登つたり、修学旅行は京都方面でした。

終戦のどきは、まだ萩坪にいた。アメリカの飛行機飛んで来てガラス戸が壊さいつからつてガラス紙を貼らせらいでね。で、貼つてだつて、「やめらいいんわ、戦争終わらだから」と言われた。父親は、敵の飛行機が飛んでくつと見だがつて戸の陰から見つたんだよ。防空壕も掘つた、お明神さまと家の間さ、父親が。

正恵 後藤に嫁に来たのは？

フミ子 昭和二十一年の五月十四日

私の夫、一郎さんは真面目ひとつの人だつたね。亡くなるどぎ、「やあ、俺の兄弟大勢なのに、あんだの兄弟と同じくしてもらつて、ありがどなや」つて言われたつたどお。

正恵 その一言で苦労がむくわれましたね。

フミ子 百歳さんが生きて、充が産まれたどぎ、おらいに五世代住んでだんがすと。ありがだいつちやあ。んだがら仏壇の百歳さんさ毎日手を合わせでんの。あど、嫁さんの実家だ孫嫁の実家だ、三郎おんつあいつも今空家だがら、三郎おんつあんの名前も語つて、後藤家から出だ親戚一同にね、欠かさず線香をあげて拜んでんの。昔、「だれナ、お仏様さ御飯あげねでいらいいねんだ、あげろよな」つて実家の母親に言われた。そいづをかだし、く守つて生きてきましたあ。

東北新幹線古川駅から徒歩1分

くらしま齋苑

倉島バイパス店後ろ

クラシマビューネス

内覧随時受付中!

お気軽にお電話ください

大崎市古川駅前大通り2-4-12

総合案内

0229-23-9111